

## 動物園改革の中長期目標案について

動物園改革につきましては、平成17年4月に「横浜市立動物園のあり方懇談会」から提言を受けて以来、動物の動きを見せる工夫などの現場改善や3園で連携した広報などの取り組みを行い、集客面での成果をあげると共に、1万人利用者アンケートを実施して検証を進めてまいりました。

今回、あり方懇談会から指摘された4つの重点課題について、解決の方向性を中長期目標案として以下の通りとりまとめました。

### I 動物園改革における重点課題と中長期目標

#### 動物園改革の重点課題 [横浜市立動物園のあり方懇談会]

##### 1 経営体制の見直し

直営2園の経営体制を見直し、3園の一体運営や将来的には動物園専門の事業組織に運営させることを検討。

##### 2 野毛山動物園の受益者負担

受益者負担を求めるかどうかを検討。求めた場合には、得た収入を解説の充実やマーケティングに活かす仕組みを検討。

##### 3 金沢動物園の戦略見直し

コンセプトを転換し、環境教育施設への転換や再投資による魅力向上を図る。どちらもしないなら、順次閉園に向け規模縮小していく。

##### 4 ズーラシアの投資戦略

アフリカ区の整備を集客戦略の視点で練り直す。近隣の競合施設の分析や展示の工夫、トラムやビジターセンター等の来園者要望を整備計画に反映することが必要。

#### 中長期目標

##### 最適な主体・手法によるサービスの提供

##### 1 経営体制の見直し

20年4月に直営を見直し、経営を指定管理者に一体化することにより、管理運営の効率化及び入園者サービスの向上を図ります。

##### 2 野毛山動物園ネーミングライツ導入等

市費負担の軽減策としてネーミングライツの導入、物販等の多角的収入の確保に努めます。

##### 創造的な都市・横浜の魅力づくり

##### 3 金沢動物園再生構想

周辺の豊かな緑を活かして自然環境をテーマとするセンターとして活用するなどの検討をします。

##### 4 ズーラシアの整備計画

ズーラシアの未整備地区については、ヒルサイドステージの開催効果を踏まえ、集客の視点からも魅力的な計画を策定します。

### 3園の役割分担とコンセプト

#### (1) 野毛山動物園

小さな子どもが初めて動物園に出会い、ふれあい、命を感じる動物園  
誰もが気軽に訪れて、楽しく憩い癒される動物園

#### (2) よこはま動物園ズーラシア

横浜市を代表する総合的な動物園として、誰もが楽しみながら学べる動物園

#### (3) 金沢動物園

周辺の豊かな緑を活かして、自然環境をテーマとするセンターの一環として活用する動物園

☆ 万騎が原ちびっこ動物園の家畜については、各園の役割分担に伴い金沢動物園に19年度中に移転し、不要となった獣舎を撤去、動物園区域を縮小します。

また、小動物(モルモット、ヒヨコ、ハツカネズミ等)とのふれあいコーナーは近隣を中心とした利用実態を踏まえ、当面の間維持することとします。

## II 個別課題

### 1 経営体制の見直し

平成19年第2回市会定例会における動物園条例改正の議決を踏まえて、20年4月に野毛山・金沢動物園の直営を見直し、指定管理者に経営を移管するため必要な手続きを進めています。指定管理者の優先交渉権者については指定管理者委員会での審査が終了しましたので、指定議案について第4回市会定例会にお諮りします。

#### □ 指定管理者委員会における優先交渉権者審査結果

対象団体	1次審査	2次審査	合計点
	書類審査 評点 (100点満点)	ヒアリング評点 (50点満点)	
財団法人横浜市緑の協会	86.7点	42.8点	129.5点

\* 合否基準: 書類審査で100点満点中60点以上、ヒアリング審査で50点満点中30点以上、かつ、各審査項目で重大な瑕疵がないこと。

### 2 野毛山動物園のネーミングライツ導入等

入園料無料で開放している野毛山動物園について、利用者サービスの維持・向上を図るとともに、施設維持管理コストを軽減するために、ネーミングライツを導入することとします。

〈主な募集条件〉

#### (1) 命名権料及び期間

野毛山動物園の管理費のうち、餌代等の動物飼育費及び来園者サービスに関わる経費相当分として、年間5000万円以上、期間は5年間以上を希望します。

#### (2) ネーミングライツの範囲

野毛山動物園の愛称として、企業名又は商品(ブランド)名をつけることができます。  
[例: 野毛山〇〇動物園]

#### (3) スケジュール

平成19年12月公募、平成20年3月～6月決定・契約・準備、7月～導入

### 3 金沢動物園再生構想

周辺の豊かな緑を活かして、自然環境をテーマとするセンターとして再生していきます。

#### 3-1 あり方懇談会、第三者評価委員会の意見

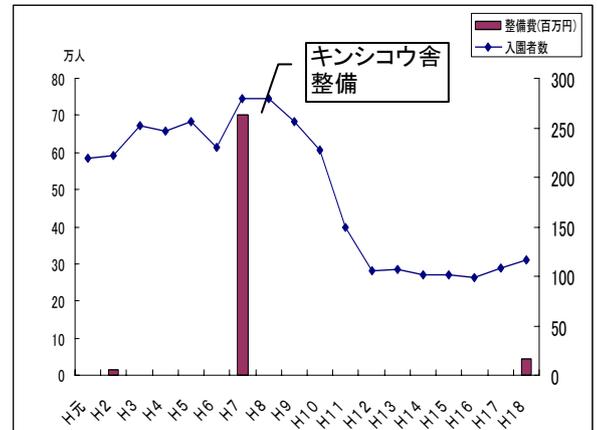
##### (1)あり方懇談会(平成17年4月)

コンセプトの陳腐化や過少投資による悪循環に陥っており、存在のアピールと内容の充実が必要である。見直しの方法としては、コンセプトを環境教育施設へ転換する、若しくは再投資による魅力向上を図る。どちらもしないなら、順次閉園に向け規模縮小していく。

##### (2)動物園改革第三者評価委員会(平成18年9月)

ただ単に入園者数だけを目的にするのではなく、動物園の役割や意義を考慮した環境教育的な施設として位置づける考え方もある。提言を受けて、小さな現場改善を積み重ねていくことは評価されるが、それぞれの動物園の役割分担を再考した根本的な改革(コンセプトの転換)が必要である。

金沢動物園全面開園以降の整備費と入園者数



#### 3-2 統廃合の可能性検討結果

以下の理由により、統廃合ではなく環境センターとして再生する方向を検討していくこととしました。

- 現在の3園は市内にバランス良い立地となっており、集客圏を適切に分担している。(下表1)
- 植物区や周囲の自然環境の有効活用の余地がある。
- 改革の成果として、利用者数の回復がみられている。(下表2)

(表1)入園者の来園圏の上位3位(H18利用者調査)

園名	1位	2位	3位
ズーラシア	旭区 8.3%	保土ヶ谷区 5.2%	戸塚区 4.6%
野毛山	川崎市 9.2%	神奈川区 8.8%	西区 7.6%
金沢	金沢区 13.0%	横須賀市 9.6%	戸塚区 6.1%

(表2)入園者数推移(下段は対前年度伸び率)

14年度	15年度	16年度	17年度	18年度
268,841人	271,463人	264,134人	288,524人	310,237人
-6.1%	1.0%	-2.7%	9.2%	7.5%

(1)趣旨

「環境行動都市」横浜の実現をめざし、環境保全(緑や生物多様性の保全・再生・創造)を推進し、環境教育の場と機会を市民に提供します。円海山の環境を生かし、「森とエコ」をテーマに、動物園及び植物区の一体的な整備を行います。

なお、リニューアル完了後にネーミングライツの導入を検討していきます。

(2)再生構想案概要

(3)動物園改革第三者評価委員会(平成19年11月)の評価

金沢再生構想案については、環境教育、環境保全の要素が組み込まれ、民間にはできない、市役所が取り組むにふさわしい施設になっており、横浜市の象徴的なプロジェクトとしても方向性を評価する。

4 ズーラシアの整備計画

ズーラシアの未整備地区については、開港150周年記念ヒルサイドステージの開催効果を踏まえ、市会にお諮りしながら、集客の視点からも魅力的な計画を策定していきます。

(1)整備面積

約5ha

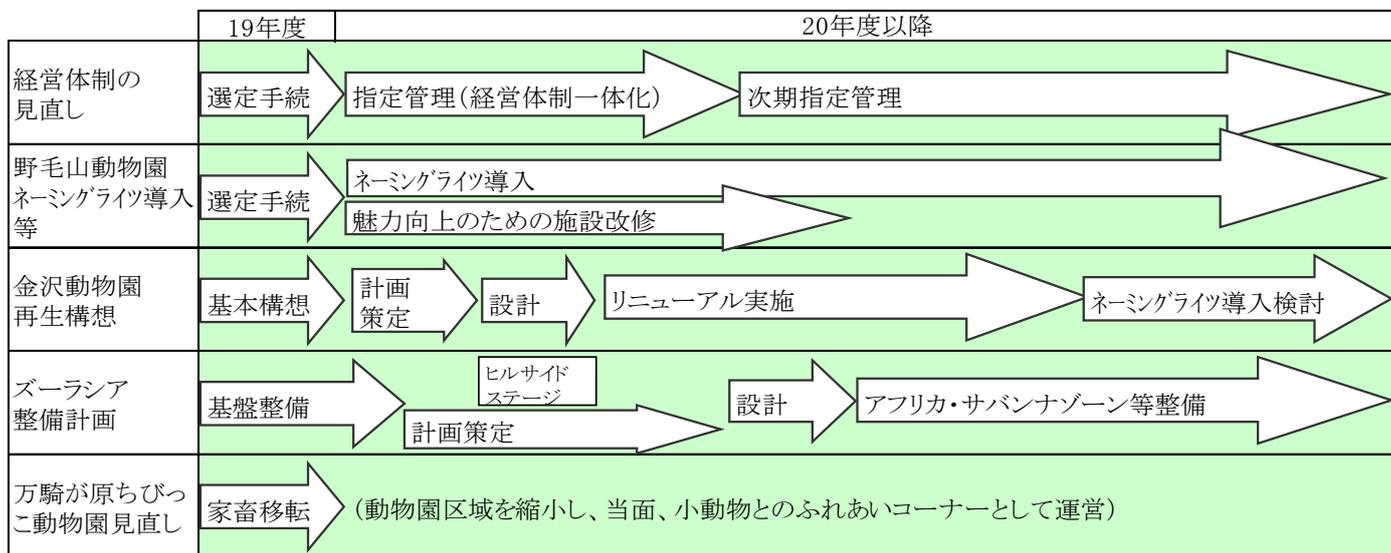
(2)アフリカサバンナゾーン展示予定動物

キリン、シマウマ、ライオン、ダチョウ、ハイエナなど

(3)主な新規施設

レストラン、売店、ビジターセンター、園内移動手段、動物の魅力を引き出す展示場整備など

III 動物園改革の進め方





# エコ森プロジェクト

(金沢動物園再生構想案概要版)

2007. 11. 29

横浜市環境創造局

# Q1.再生方針は？

# A.テーマもエリアも活動領域もこれまでの枠を取り払って、刷新です

金沢動物園は、これまでの動物園の既成概念を取り払い、再生します

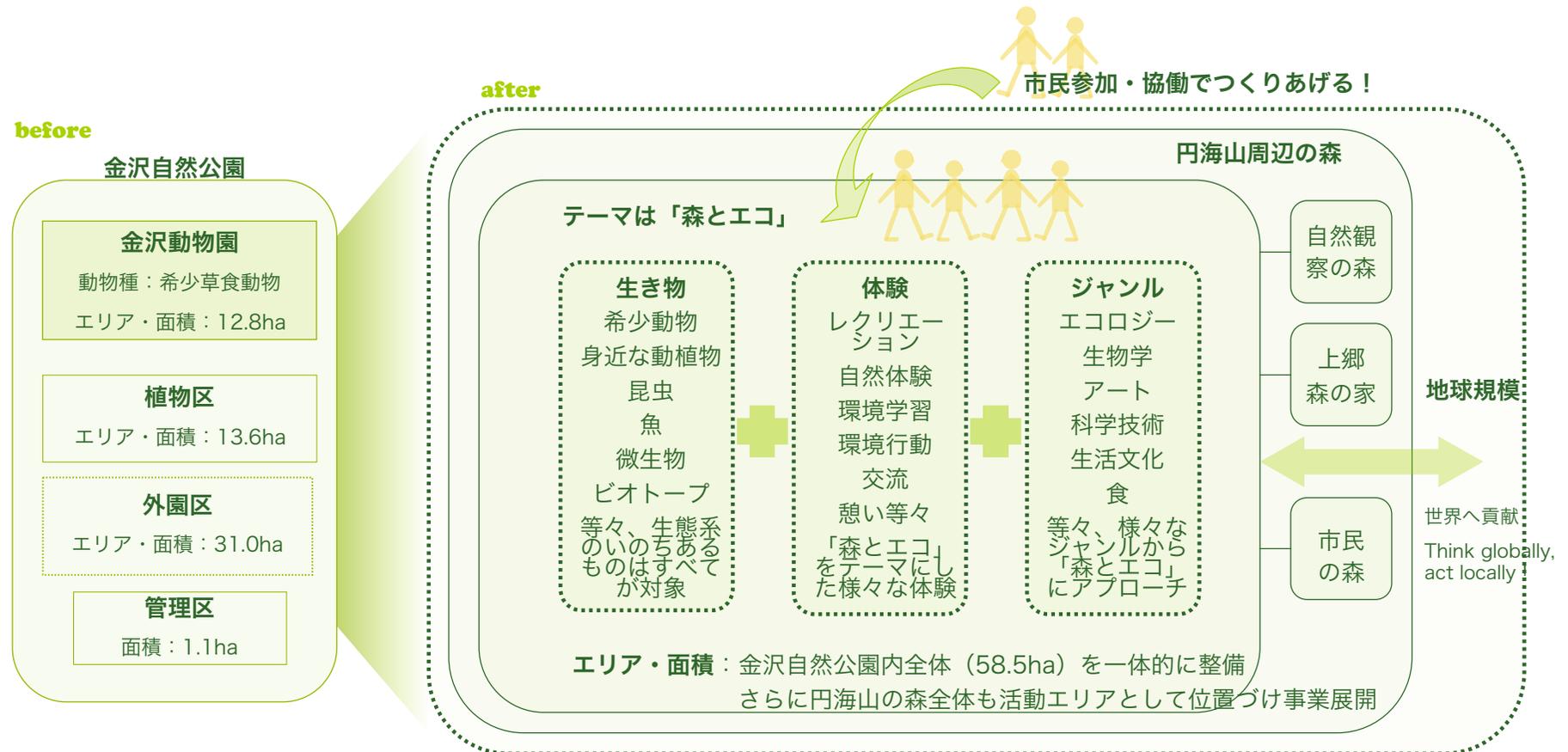
まず、見て楽しむだけの動物園ではなくなります

植物区と動物園の枠も取り払い、円海山の環境を生かし、「森とエコ\*」をテーマに一体的に整備を行ないます

また、横浜市の貴重な緑や生き物を守り育てるため、環境行動への気づきの誘発や活動支援も新たな役割とし、整備を進めます

みんなの宝物である希少動物がいるからこそ、環境保全のメッセージを強烈だけどやんわりと伝えることができる

「森とエコ」をテーマとした、環境創造局だからこそできる、新しい施設像（動物園像）をめざします



\*エコ：4つの要素 ①生態系、いのちのつながり ②環境保全 ③環境にやさしい生活提案 ④環境行動都市の実現

Q2.どんな施設に生まれ変わるの？

A.一言でいうと、

です

## エコ森

ワンダーパーク！

エコ森は、いろんな気づきと発見に満ちあふれたワンダーパーク！

自分とつながっているいのちの輪っかを、頭じゃなくて体で、五感で、実感できるしかけがいっぱい！

動物や生き物のこと、自然界のこと、自分の体を実際に動かしたり、五感をフル稼働して、分かり合えるようになる展示もいっぱい。

いつもワクワクできるよう、新しいコンテンツの開発も、みんなで協力しあってつくりあげていきます

だから、いつも新鮮で活気にあふれる！ キンなエコ森ワンダーパークが誕生します！



### Q3. 円海山周辺の森をどんなふうを守り活用するの？

### A.施設の枠を越えて、協力し合って、森と生き物を守ります

#### ●枠を越えて、横断的に、円海山周辺のエリアで環境保全活動を展開します

「よこはま未来の森」の「南の森」として位置づけられる円海山周辺の森。

周辺は宅地が進んでいるが、円海山周辺は、豊かな自然環境が残っており、野生動物の生息場所として、市民の憩いの場として、保水林として、そして金沢八景に流れ込む陸水の大切な水・緑環境として、きわめて重要な役割を果たしています。

その自然環境に抱かれた立地を活かして、金沢自然公園は、「森とエコ」をテーマとした施設（動物園）として再生することとします。

再生するにあたり、円海山周辺の森と協力し合い、行政の縦割りの枠を越えて、横断的にこのエリアの緑・水環境、そして生き物を守り、再生する取組を推進します。

また、横浜自然観察の森、上郷森の家、市民の森とそれぞれの森の特徴を活かし、役割分担を図っていききたいと思います。

新生・金沢自然公園は、環境保全を考え、行動するための入口として、楽しさと気づき、体験重視の施設をめざします。

#### ●円海山の自然を満喫できるレクリエーションを積極的に提案します

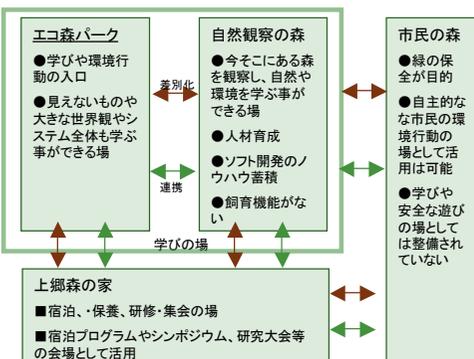
ハイキングやオリエンテーリング、自然体験等のコースやプログラムを、周辺の施設や市民団体と協力して、考案し提案していきます。

そのため、円海山周辺の森、南の森全体をフィールドとしたプログラム開発体制を整備します。

#### ●環境行動都市の実現、「水と緑の回廊」形成、生物多様性保全再生のために、市民の活動支援ならびに人材育成の役割を担います

横浜自然観察の森、上郷森の家と協力して、それぞれの資源を生かし、ハードも、ソフトも、人材も、体制も、協働で整備していくことを基本とします。

また、市民が気持ちよく活動できるよう、支援活動も協働で行なっていきます。



## Q4.パーク全体は、どんなふうになるの？ A.わくわく体験いっぱいのワンダーパークに生まれ変わります

### 園内には、気づき誘発・ワクワク度アップのための仕掛けが満載です

生き物や生態系に興味を持ってもらえるように、気づきのための仕掛けを園内全体に整備します。

その場で参加できるアクティビティや探検グッズの貸出、ワークショップ・プログラム等のソフトを充実させます。



園内には、展示サテライトハウスや発見ポケット展示、解説板等を整備し、メリハリのある観覧コースをつくり出します。またこうした展示物は自然エネルギーを用いて自立型を基本とします。

これらの展示の企画や制作も、市民協働が進めます。つくる過程も大切な展示の要素です。



### 園内のアメニティもアップさせます

園内に気持ちよく、そして楽しく過ごせる休憩コーナーやガーデンカフェ、ツリーハウス等を、市民協働で徐々に整備します。園内では「常に何かをつくっている」そんな様子も「エコ森」の風物でもあり、魅力でもあります。

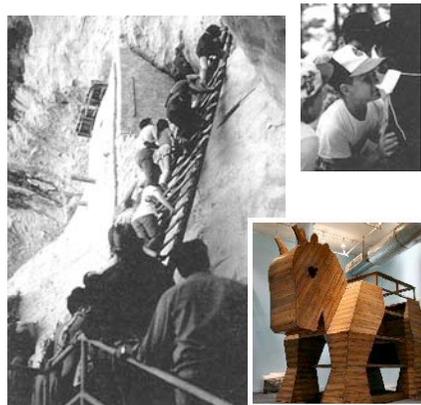


また、園内の移動手段として、環境にやさしい電気自動車やペロタクシー、高低差を生かして探検コースも兼ねたショートカット動線等も整備します。



**いろんな角度から、生き物や生態系を観察できる仕掛けをつくります**

普段見ることができない角度や高さから観察できるようにします。また、いろんなジャンルからひとつのものを解説し、未知のものとの出会いをつくりだします。発見の喜びを経験できるワンダーパークです。



**環境行動のモデルとなるものが園内にはたくさんあります**

自然エネルギー（ソーラー、風力、水力）を使った設備や解説板、緑化や雨水利用を導入した施設等を整備し、身近に導入できるアイデアを提案します。



動物糞の堆肥化、バイオトイレ等も整備します。



市民と協働で、園内に大小のビオトープも徐々に作っていきます。そこは、身近な生き物たちの観察の場にもなります。



**感性や五感を触発し、自然やいのちをより身近に感じる遊具や装置、アート作品もあります**

横浜市で活躍するアーティストや市民団体を巻き込んで、「森とエコ」をテーマとした作品や遊具を徐々に園内に整備していきます。「エコ森」はいつもアーティストがいる創造的で刺激的な場所です。



## Q5. 今の動物園エリアや園内の生き物の展示はどうなるの？

## A. 動物との距離が近くなる、これまでにない体験ができます

「近くで見る」ではなく「動物の行動・生態体験展示」でより近い関係に！

これまでありがちな近くで動物を見られるだけでなく、より動物や生き物を理解するために、実際に自分の体を使って、動き等をまねてみる展示装置を設けます。

やってみて、理解しあえる展示が基本です。

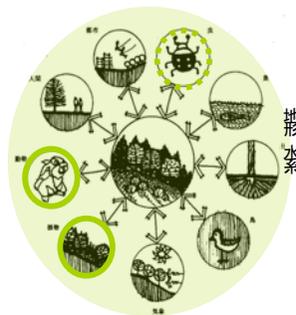


動物と直接のふれあひも重視します

「牧場」を園内に設け、家畜や小動物と触れ合える場所をさらに整備します。いのちの大切さ、希少動物がみんなの宝物であること、環境保全のシンボルとして「エコ森」にいることを伝えていきます。



エコ森で扱うのは動物だけではなく 生態系のすべてのいのちあるものや環境が対象ですから、生物多様性を重視します



円海山周辺にすむ生き物たち、横浜市の生き物たちもエコ森では扱い、生物多様性保全と再生をめざします。

生態系の中での位置づけや関係性、いのちのつながりなども、生き物の特徴の他に紹介していきます。

**生態系**  
太陽のエネルギーを吸収して、二酸化炭素から有機物を生産することが出来る動物

**生産者**  
緑の植物

**消費者**  
1次消費者を食べる動物  
2次消費者を食べる動物  
3次消費者を食べる動物

**分解者**  
死んだ動物や植物を分解して、土壌改良、堆肥と見られるようにする

### B 横浜の生きもの

● 身近な生きもの

● 希少な生きもの

オオタカ	キセキレイ	モズ
ハブトロン	アカマダラカガネ	ヤマサナエ
両生類	は虫類	魚類
シメツグリアオガエル	ヤマカガシ	ホトドジョウ

## Q6. どうやって、ワクワク感や新鮮さを保つの？

## A.常にコンテンツを開発し続ける・常に人がいるしくみを整備します

市民と協働体制で、環境教育や自然体験、園内の展示物をソフトを優先させて開発し、制作・実施にその成果を反映させます

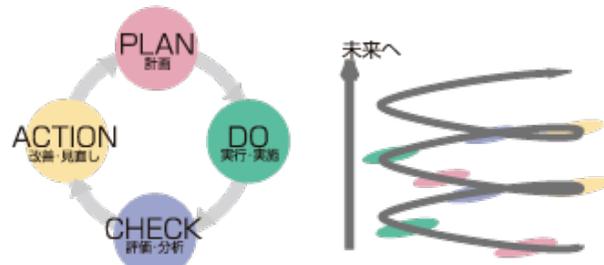
まず、ハードよりもソフトと体制の整備に優先的に整備し、コンテンツが継続して開発できる協働体制・予算、場所を確保します。いつも開発メンバーやアーティスト達が園内で活動している活気のある「エコ森」をめざします。

蓄積されたソフトやプログラムは、園内だけでなく、市内等の学校や施設などでも活用されることを視野に入れて、開発していきます。



投資を無駄にしないためのノウハウも駆使します

効果的な投資をするために、ねらいや手法が有効か等を調査・検証・改善しながら完成させていく開発手法（エヴァリエーション）を導入します。また、PDCAのマネジメントサイクルを現場に浸透させ、「エコ森」を充実させていきます。



ログハウスのモデルハウスを使って、園内に「森とエコ」のチャレンジ街を！

チャレンジ街のテーマはもちろん「森とエコ」。ここには、ショップ、ラボ、アトリエ、ギャラリー等があり、市民が1ヶ月から半年単位で借りられるログハウスがあります。ログハウスはモデルハウスを活用し、民間との協働で整備します。

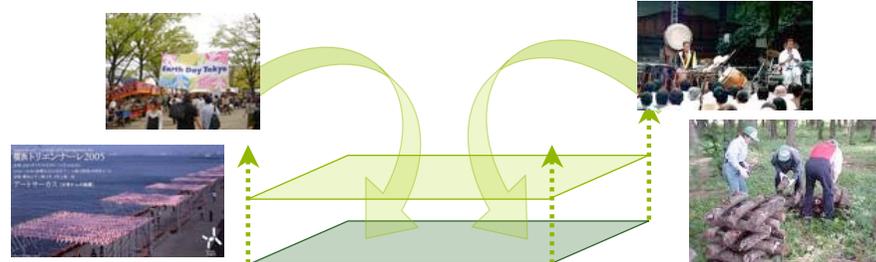
ラボでは、大学や企業も研究活動を行ない、普及事業も展開できます。アトリエは、アーティスト・イン・レジデンスや工芸教室等の場所としても活用できます。ショップやギャラリーは、市民が生活提案や発表の場として利用できるよう開放します。



市民が自由にフィールドを活用できよう、受け入れ体制は柔軟に！

イベントの誘致は積極的に！可能性をさらに伸ばします

「エコ森」には、通常の事業を行なうレイヤーの他に、別のもうひとつの活動レイヤーがあります。これは、市民のニーズを聞きながら、「エコ森」の事業を徐々に厚みを持たせていくためのものです。テーマが「森とエコ」であれば、どんなジャンルの活動もイベントも受け入れ、常に活気に満ちたワンダーパークとして、市民から愛され支援される施設をめざします。（可能性：花やシイタケのレンタル菜園、コンサート、アースディ・横浜トリエンナーレの誘致等）



## Q7.再生後の目標は？ A.大きな目標は「環境創造都市」横浜の実現です

### 背景

#### ■地球規模の脅威

地球温暖化による環境破壊が急激に広がり、天変地異が多発し、絶滅の危機に瀕している種が年々増加傾向にある。人類の存続さえ危ぶまれる程、その脅威は深刻。環境を保全・再生するために、今、自分たちで何ができるかを真剣に考える場と機会が求められている。

#### ■横浜市の取組

横浜市はこうした危機を真摯に受け止め、環境創造局では下記の取組を始めている。

- ①横浜市水と緑の基本計画
- ②横浜市環境教育基本方針、環境教育アクションプラン
- ③（仮称）「横浜市生物多様性保全再生指針」（平成19年度）

#### ■金沢動物園の潜在能力

金沢動物園が立地する円海山周辺は、緑の保全、生物多様性の保全、環境教育のフィールドとして活用できる高い潜在能力を持っている。

しかし現状は、その潜在能力を活かせず、希少草食動物をテーマとした特殊動物園として位置づけられている。また環境保全・種の保全について説得力あるメッセージを発することができる資源と実績を持ちながら生かし切れいているとは言い難い。

そこで、今までの枠組みを取り払い、コンセプトを刷新し、資源活用方針の再構築を図ることとする。

### 大きな目標（ミッション）

「エコ森」（仮称）は、「環境創造都市」横浜の実現をめざし、環境保全（緑の保全・再生・創造、生物多様性の保全・再生・創出）を推進し、環境教育の場と機会を市民に提供します。

### 再生方針

金沢動物園は、これまでの動物園の既成概念を取り払い、再生します

まず、見て楽しむだけの動物園ではなくなります

植物区と動物園の枠も取り払い、円海山の環境を生かし、

「森とエコ」をテーマに一体的に整備を行ないます

また、横浜市の貴重な緑や生き物を守り育てるため、

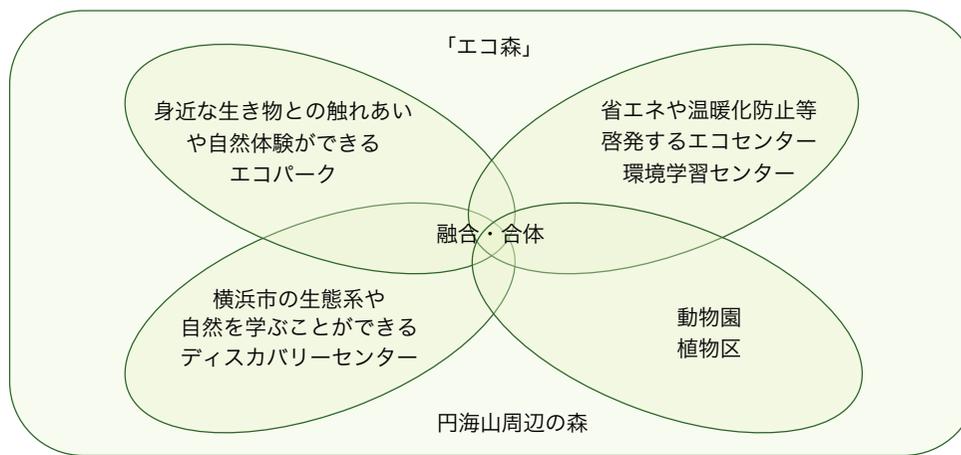
環境行動への気づきの誘発や活動支援も新たな役割とし、整備を進めます

みんなの宝物である希少動物がいるからこそ、

環境保全のメッセージを強烈だけどやんわりと伝えることができる

「森とエコ」をテーマとした、環境創造局だからこそできる

新しい施設像（動物園像）をめざします



### 成果指標

- 利用者数（入園数・利用数・情報アクセス数・相談件数）
  - ・入園者数（動物園）2006年度 31万人 再生後は 40万人
  - ・利用者数（公園）2006年度 50万人 再生後は 65万人
- 緑の保全・再生・創造への取組件数
  - ・植樹本数
  - ・緑化促進件数 等
- 生物多様性の保全・再生・創出の取組数
  - ・繁殖件数
  - ・生息環境の再生件数
  - ・修復や繁殖個体の自然下への再導入件数 等
- 環境教育・自然体験・環境保存のためのプログラム開発数
  - ・年に5本継続的に
- 上記への参加人数
  - ・年々アップ
- 「森」を活用し活動している市民団体ならびに事業者数
  - ・年々アップ
- うち、協働で実施した事業数
  - ・年に5本継続的に